

Real PCR™ 下痢パネル (犬猫)

Feb, 2015 Updated

下痢は伴侶動物ではよくみられる疾患である。下痢の感染源を同定することは精密検査の重要な要素だが、見過ごされがちである。虫卵や寄生虫を発見するための便検査や追加のジアルジア検査はだいたいルーチンで実施されているが、下痢の感染源を同定する検査はそれ以上にはほとんど行われていない。ひとつには、胃腸感染症の原因を特定する伝統的な方法は、高価なわりに診断感度が低く時間がかかるという理由があるだろう。犬と猫では、広域スペクトルの駆虫薬と抗生物質で治療することが一般的である。もし下痢が続くようであれば、感染性の原因は可能性が低いと考えられ、療法食や対症療法が行われる。もしこの方法がうまくいかなければ、特異的な治療に結びつける確定診断を得るために、腸管のバイオプシーが行われる場合もあるだろう。持続性や再発性の下痢の治療がうまくいかなかったり確定診断ができなかったり、あるいは効果のない投薬に費用がかかったりすることは、オーナーの不満やノンコンプライアンスだけでなく、動物の健康を危険にさらすことにもつながる。

「IDEXX RealPCR™ 下痢パネル」なら、ひとつの便検体でさまざまな下痢の病原体のスクリーニングができる。これらのパネルは一般的な腸管の病原体を同定するわかりやすいツールで、より早く正確に患者の下痢の原因となっている病原体が同定できるようになる。パネルは犬および猫でよく下痢を起こす病原体を検出するように設計されている。これらのパネルはルーチンの便検査(下痢の犬・猫における虫卵・寄生虫検査や スナップ・ジアルジア)を補うために使うことができる。このパネルは、シェルターのような環境における調査目的の場合を除き、健康な動物のスクリーニングには向いていない。

<犬下痢パネル>

- 犬腸管コロナウイルス(CECoV)
- 犬ジステンパーウイルス(CDV)
- 犬パルボウイルス2 (CPV2)
- *Clostridium perfringens* enterotoxin A (クロストリジウム・パーフリンゲンス エンテロトキシンA)
- *Giardia* sp.(ジアルジア)
- *Cryptosporidium* sp. (クリプトスポリジウム)
- *Salmonella* sp.(サルモネラ)
- *Campylobacter jejuni* (カンピロバクター・ジェジュニ)
- *Campylobacter coli* (カンピロバクター・コリ)

こんな
ときに

- 頻回の水様便が認められる犬
- 下痢と嘔吐がある犬
- 便に血液や粘液、未消化のフードが混ざっている犬

<猫下痢パネル>

- 猫コロナウイルス(FCoV)
- 猫汎白血球減少症ウイルス(FPLV)
- *Clostridium perfringens* enterotoxin A (クロストリジウム・パーフリンゲンス エンテロトキシンA)
- *Giardia* sp.(ジアルジア)
- *Cryptosporidium* sp. (クリプトスポリジウム)
- *Salmonella* sp.(サルモネラ)
- *Trichomonas foetus* (トリコモナス・フィータス)
- *Toxoplasma gondii* (トキソプラズマ)
- *Campylobacter jejuni* (カンピロバクター・ジェジュニ)
- *Campylobacter coli* (カンピロバクター・コリ)

こんな
ときに

- 頻回の水様便が認められる猫
- 下痢と嘔吐がある猫
- 便に血液や粘液、未消化のフードが混ざっている猫

「IDEXX RealPCR™ 下痢パネル」結果の解釈

患者のシグナルメント、病歴、臨床像、ワクチン歴およびその他の臨床検査データを考慮に入れて解釈すべきである。例えば、3 ヶ月齢の子犬で突然の嘔吐、出血性下痢、白血球減少が認められ、Real PCR でパルボウイルス陽性となった場合はパルボウイルス性腸炎と診断してもよいだろう。しかし、5 歳齢の犬でワクチンをきちんと接種されており、食欲があって臨床的に元気だが慢性の間欠性下痢が見られるような場合、コロナウイルス陽性は偶然である可能性が高いだろう。下痢の原因を特定するためには、さらなる診断法を検討すべきである。しかしこの犬が慢性的にコロナウイルスを排泄しており、他の犬への感染源になっている可能性はある。

またアイデックス検査サービス 総合検査案内(2014-15 版)では犬および猫の下痢パネルに含まれる病原体のリスト(一般的な臨床徴候, 文献上の発生頻度, 5 ヶ月間 IDEXX RealPCR 下痢パネルで調査した発生頻度, 人獣共通感染症の可能性やその他の診断法などを含む臨床的な特徴および推奨される治療法)をまとめているので参照いただきたい。ほとんどの病原体で, 文献上の発生頻度と IDEXX RealPCR における発生頻度が似ているのは興味深い。違いは動物の集団や病原体の検出方法が違うことに起因しているのかもしれない。

以上